

3-(1) 災害対応編を策定する【地震】

大地震が発生した際、どのような流れで活動をするのか、活動内容や役割分担についてあらかじめ決めておき、早めに対応することができれば、被害を最小限にとどめることができます。

いざというときに慌てずに済むよう、また被害が最小限となるよう、自主防災会の防災行動について話し合い、地域の実情に応じた内容となるよう作成してみましょう。

(1) 地震発生後の流れと主な活動

地震発生後の自主防災会、自主防災部、地域住民等の動きは、次のようになります。



〔学区〕自主防災会（会長等の役員）

- 出入口の確保
- 家族の安否確認
- 隣近所の被害確認
- 必要があれば消火、救出・救護活動
- 非常持出袋を持つ
- 消火・救助活動に必要な物を持つ

避難所へ

- 自主防災会会長等役員は一旦地域の集合場所へ無事を伝え早めに避難所へ

- 避難所開設準備
- 自主防災会本部の立ち上げ
- 応急救護所設置

- 防災器材格納庫からの器材の取り出し

- 情報収集
- 被害状況の把握

- 自主防災会内の被害状況の把握
- 区役所等関係機関との情報共有
- 消防団との連携活動

学区内に被害があれば防災活動の応援

- ▲ 活動に協力できる自主防災部が集まってきたら
- 下記の活動の役割分担、リーダー決め
- 消火活動・周囲の安全確認
- 救出・救護活動
- 応急救護所
- 避難誘導
- 負傷者の搬送
- 避難所開設
- 安否確認

防災活動が収束すれば

自宅が被災していない住民は自宅へ戻る

自宅が被災し避難所で避難生活を送る住民は避難所へ

マニュアル作成でまず、決めなくてはならないこと

(2) いつ 自主防災会本部を設置するか (避難所を開設するか)

大地震が発生した場合のほか、学区内に被害が発生したり、地域住民の方々が自主避難をされる場合は、避難所を開設していただかなければなりません。

いつ自主防災会本部を設置するのか (避難所を開設するのか) を決めておく必要があります。

避難所を開設する基準が決まれば、本部役員、各種団体のほか、地域住民の方にも周知しておきましょう。

(3) 誰が 何をするのか

いざというときのために役割分担を決めておきます。

役割分担表 (地震) (様式 3-1) に記載していきましょう。

(避難所運営マニュアルや、防災行動マニュアルの水災害編、土砂災害編で既に作成した役割分担があれば、それを基に作成します。)

役割分担表ができれば、防災行動マニュアルの資料 4として添付します。

● 避難所の開設

避難所の名称と開設する担当者を記載していきましょう。

避難所運営マニュアルに基づいて、開設の担当者等を記載します。

複数ある場合は、自主防災会本部の拠点となる避難所を決めておきましょう。

● 学区内の被害状況の把握

情報収集担当者と情報処理担当者を記載していきましょう。

● 消火活動担当

初期消火に必要な資器材の準備や活動のリーダーとなる担当者を決め、記載します。

● 救出・救護活動担当

救出・救護活動に必要な資器材の準備や活動のリーダーとなる担当者を決め、記載します。

● 応急救護所担当

応急救護所を設置するほか、応急処置を実施する担当者を記載します。

● その他

決めなければならない役割があれば記載します。

夜間・昼間、学校の就学時間、事業所の就業時間など学校との取り決めや事業所との協定に応じて、また、観光客対策など、追加・変更する役割がある場合は、記載してください。

乳幼児がいるご家族、障害のある方、高齢の方、LGBTの方など、避難時における特別な配慮や支援がいる方についても検討しておきましょう。

【作成例】

様式3-1

担当	氏名・役職	氏名・役職	備考
避難所1 () 開設			
避難所2 () 開設			
避難所3 () 開設			
情報収集担当			
情報処理担当			
消火担当			
救出・救護担当			
応急救護所担当			
その他 ()			
その他 ()			
その他 ()			

※ 人数が足りなければ、災害時、集まった方々に担当してもらいましょう。
 ※ 避難所運営マニュアルで定めた役割分担を基にしても構いません。

(4) 被害状況の把握・安否確認の方法

自主防災会の本部（避難所）で、情報収集がスムーズに行えるよう、地域の被害状況の把握・住民の安否確認の方法を事前に決めておきましょう。

方法は様々なパターンがあります。どのパターンが地域の実情に合っているのか、また実施できるのか検討してみましょう。

（既に決められているところにあっては、その方法を記載してください。）

災害時には、高齢者や障害のある方など自力での避難等が困難な「要支援者」に対して、地域で助け合う必要があります。平常時から、地域において、コミュニケーションを取り合い、要支援者の把握をしておきましょう。

本市では、条例を制定し、平常時から自主防災会に対し「避難行動要支援者名簿」を提供することが可能となりました。避難行動要支援者名簿を、普段から防災の取組にも活用することも検討しておきましょう。

パターン	どこで	誰が	どのようにして	メリット	デメリット
1	避難所	受付担当 ほか	町（町会）別避難者名簿を活用する （避難所運営マニュアル様式集②参照）	・そのまま避難所で活用できる	・多数の住民が一度に来たときに大変 ・被害状況が詳しくわからない
2			各家庭に事前配布し記入した用紙を持ってきてもらう（様式4-1）	・各世帯の状況がわかる	・非常時に持ち出せない、忘れる ・避難所で再度必要書類を書く必要がある
3	地域の 集合場所	自主防災 部長・組 長ほか	各家庭に事前配布し記入した用紙を持ってきてもらう、又は、その場で記入してもらう（様式4-1）	・各世帯の状況がわかる	・非常時に持ち出せない、忘れる ・避難所で再度必要書類を書く必要がある
4			各家庭の状況を事前に記入してもらった用紙を部長が保有し、災害発生時に集合場所へ持っていき、その場で追記してもらう（様式4-1）	・各世帯の状況がわかる ・短時間で確認できる	・個人情報の問題、部長の責任が重い ・部長が要救助者になった場合に活用できない ・避難所で再度必要書類を書く必要がある
5			集まった世帯から用紙に記入してもらう（様式4-2）	・集計がしやすい	・どこが未確認か把握しにくい
6			地図を用いる（様式4-3）	・みんなで情報共有が可能 ・どこが未確認かすぐにわかる	・大きな地図が必要 ・誰かが地図や筆記用具を準備する必要がある
7			町内図が記載された看板を用いる	・みんなで情報共有が可能 ・どこが未確認かすぐにわかる ・常設されているので、準備物が少なく済む	・必ずしも看板があるとは限らない ・筆記用具等が必要
8	その他	自主防災 部長・組 長、町内 会長ほか	町会（町内会）名簿を用いる	・普段から作成しているものなので、特に準備がいらぬ	・部長、会長が要救助者になった場合に活用できない ・町内会に入っていない方の把握を別にする必要がある ・被害状況を別に確認する必要がある
9	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）

各世帯ごとに1枚ずつ記載するパターンの被害状況・安否確認用紙です。

住宅地図と合わせて活用すると、地域の集合場所に来られていない未確認の世帯がわかりやすくなります。

これらの用紙を集計し、各自主防災部、ブロック別の避難状況を集計すれば、避難所での集計作業が大幅に軽減できます。

【作成例】

様式4-1-1

被害状況・避難状況表				
【 】学区自主防災会		自主防災部 (ブロック)		
代表者				
全世帯数	世帯			
避難人数	名			
負傷者数	重傷者	名		
	軽傷者	名		
	合計	名		
被害状況	火災発生件数	件		
		倒壊家屋数	全壊	件
			半壊	件
			一部倒壊	件
合計	件			

様式4-1-2

ブロック別被害状況・避難状況表【 】ブロック								
								代表者名
自主防災部名	世帯数	避難人数	負傷者数		火災件数	被害状況 倒壊家屋件数		
			重症	軽傷		全壊	半壊	一部倒壊
計	世帯	名	名	名	件	件	件	件
			計	名	計			件

様式4-1-3

学区別被害状況・避難状況表								
								自主防災会長名
ブロック名 ()内は 代表者名	世帯数	避難人数	負傷者数		火災件数	被害状況 倒壊家屋件数		
			重症	軽傷		全壊	半壊	一部倒壊
()								
()								
()								
計	世帯	名	名	名	件	件	件	件
			計	名	計			件

【作成例】

様式4-3

被害状況・安否確認用地図（町内会組）

①	人（人）
②	人（人）
③	人（人）
④	人（人）
⑤	人（人）
⑥	人（人）
⑦	人（人）
⑧	人（人）
⑨	人（人）
⑩	人（人）
⑪	人（人）
⑫	人（人）
⑬	人（人）
⑭	人（人）
⑮	人（人）
⑯	人（人）
⑰	人（人）
⑱	人（人）

① 田中	② 山田	⑯ 佐藤	⑰ 渡辺
③山本		⑰藤田	
④西川		⑱安田	
⑤森		⑳黒田	
⑥林		㉑谷川	
⑦木村		㉒射場	
⑧岡村		㉓町田	
⑨川田		㉔奥田	
⑩ 島田	⑪ 田村	㉕ 村田	㉖ 谷村

⑫組長	ガレージ	
⑬山川		
⑭ 谷田	⑮ 森本	㉗ 斉藤
⑳		

㉑	人（人）
㉒	人（人）
㉓	人（人）
㉔	人（人）
㉕	人（人）
㉖	人（人）
㉗	人（人）
㉘	人（人）

避難者数
在宅避難者数
負傷者数
火災件数
建物被害件数

【凡例】

- 自力避難不能者
- 独り暮らし高齢者
- 高齢者同士
- 空き家
- 地域の集合場所

- 居住者数を記載する
- うち、負傷者数を（ ）内に記載する
- 建物被害状況を記載する
- 在宅避難者宅には○を付ける
- 火災が発生した家には☒を付ける
- 消火できた家は、☒を×で消す
- 半壊の家には/（斜線）を入れる
- 全壊の家には×（斜線を2本）を入れる

住宅地図と安否確認のための記載欄を合わせたもので、来られた世帯から記載していきます。みんなで1枚の地図を見るため、情報が共有しやすく、また被害状況も一目でわかります。

記載方法を統一しておけば、全自主防災部の安否確認用地図を集めて、被害状況を早く把握することが可能です。

(5) 防災行動マニュアルの作成

自主防災会の防災行動マニュアルを具体的に作成していきましょう。

次に掲げる項目について検討し、実施する項目の にチェックをしていきます。

また、災害図上訓練DIGで検討した結果、課題となった事項や実施すべき事項などで、記載されていない項目があれば追記していきましょう。

I 発災直後の対応（初動動作）

自主防災会の役員などの皆さんがとるべき防災行動について考えます。

（各住民の防災行動については、①地震発生後の流れと主な活動を参照してください。
(P.9)）

- 避難所に大火災が迫り、二次災害のおそれがある場合は、京都市災害対策本部、消防職員、消防団員等から避難指示が発令されるので、広域避難場所へ避難します。
- 避難所に来られている住民に、速やかに避難指示を伝達し、まとめて広域避難場所へ避難します。
- 避難指示が発令されていなくても、避難所が危険であると感じた場合は、広域避難場所に避難しましょう。

Ⅱ 自主防災会本部の設置

地震による被害を最小限に抑えるには、地域内の被害状況を把握し、迅速な災害対応をしなければなりません。

自主防災会本部では、被害状況などの情報収集のほか、消火、救出・救護活動に協力できる住民に集まっただき、安全かつ可能な範囲で、被害が大きく人手が足りない地域の応援に行っただきと考えています。

自主防災会本部

- 避難所の開設準備 → 避難所運営マニュアル参照
- 避難所開設のための各種団体長への連絡
- 自主防災会本部を立ち上げる
- 役割分担の確認
- その他必要事項
-
-



情報収集担当 (□)・情報処理担当 (○)

- 各自主防災部長等から避難状況・被害状況等の情報収集
- 地域の集合場所などで記載された被害状況・安否確認票の受け取り、集計
- 報告がない、避難所に来ない自主防災部の被害状況の確認
- 入手した情報の整理、学区全体の被災状況、活動等をホワイトボードに記載する
 - 火災発生状況
 - 負傷者数
 - 避難者数
 - 建物倒壊状況
 - 通行できない箇所
 - 地震の情報
 - 京都市、気象庁等の発表情報
- 関係機関等との情報共有
 - 【 】区役所
 - 【 】消防署
 - 【 】警察署
 - 【 】土木事務所
 - 【 】学区自主防災会（隣接学区）
- 消防団との連携活動
- その他必要事項
-
-



- 災害時には、うわさやデマなどの誤った情報も流れがちです。情報源を確認し、確実性の高い情報かどうか冷静に判断しましょう。
- 情報を収集する人は、いつ、どこで、どうして、どのように、誰からの報告か、必ずメモを取りましょう。不確かな情報はかえって混乱を招くこととなりますが、正しい情報を伝達、共有することで、住民の不安を和らげる効果もあります。

消火活動担当

- 集まった消火器やバケツなどの消火器材を1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）への応援・派遣
- その他必要事項
-
-



- 大地震が発生すれば、火災も必ず発生します。小さな火の段階で消火できれば、大火災につながりません。初期消火を実施することは非常に重要です。
- 木造家屋が密集しているところなど、火災が起こったら被害が拡大するおそれがある地域では、消火活動を最優先で行います。
- 気付かない間に火災に取り囲まれ、大火災に発展していることがあるので、必ず周囲を確認する方を配置しましょう。

救出・救護活動担当

- 防災器材格納庫から防災器材を取り出し、集まった器材を1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）への応援・派遣
- その他必要事項
-
-



応急救護所活動担当

- 応急救護所の設置、必要器材の準備
- 医療機関へ搬送する必要がある方の搬送
- その他必要事項
-
-



- 軽症の方、自力又は地域住民の協力で医療機関へ行くことが可能な方は、地域で対応します。病院などの医療機関がどこにあるのか確認しておきます。
- 応急救護所では元看護師の方や、地域内の医院の医師など、応急手当ができる方に活動してもらいましょう。応急救護所で活動できる方には、日頃から依頼しておき、防災訓練に参加してもらいましょう。どこにどのように設置するか検討しておきましょう。
- 応急担架で搬送する場合、4人の人手が必要です。さらに、交代要員としてあと1人は付き添いましょう。

避難所

- 防災活動が収束すれば避難所の運営へ
その他必要事項
-
-
-

その他

- その他必要事項
-
-
-
-



【児童、生徒、学生の防災行動について】

学校の就学時間内に、地震などの災害が発生した場合は、それぞれの学校ごとに児童、生徒、学生への対応を決めています（保護者の引き取り、集団下校など）。

平成23年に発生した東日本大震災では、帰宅することができない、また自宅が被災し避難所で生活する生徒、学生さんたちが、避難所において、炊き出しや物資の配給、要支援者の避難支援など様々な防災活動を実施してくれました。

中学生以上になれば、自主防災会の一員として活動することが十分可能です。

京都市でも、災害発生時には避難所となる中学校、高等学校、大学で、生徒、学生さんが多数残っている可能性が考えられます。

これらの施設において、防災訓練や避難所運営訓練を実施し、地域と学校の連携を図るとともに、生徒、学生の皆さんに参加してもらうことで、どのような防災活動ができるのかを考えてもらい、いざというときに活動できる人づくりを進めましょう。

また、小学校で実施する防災訓練などにも、積極的に参加してもらいましょう。

チェックした項目、追記した項目を次のページに書き出してみましょう。
防災行動マニュアル（地震）の文章の完成です。

【防災行動マニュアル作成イメージ】

防災行動マニュアル

- 資料1 防災マップ
- 資料2 緊急連絡網
- 資料3 自主防災会・自主防災部名一覧表
- 資料4 役割分担表
- 資料5 防災器材格納庫器材点検表、防災器材格納庫一覧表
- 資料6 情報伝達文（必要に応じて）



〇〇学区自主防災会
防災行動マニュアル（地震）

(1) 自主防災会本部を設置するとき

- 近所や中継距離以上の地震が発生したとき
- 管内内に地震による被害が発生し、救助が必要となる

(2) 被災者への対応（初期対応）

- 被害の発生を、被災者の安全確保と被害の拡大防止を目的とする
- 救助活動、救助物資の配布、救助物資の配布、救助物資の配布
- 救助物資の配布、救助物資の配布、救助物資の配布

(3) 自主防災会本部の役割

- 災害発生時の対応
- 災害発生時の対応
- 災害発生時の対応

(4) 情報伝達（1）、情報伝達（2）

- 自主防災会本部の役割
- 自主防災会本部の役割
- 自主防災会本部の役割

(5) 消火活動

- 消火活動の目的
- 消火活動の目的
- 消火活動の目的

(6) 救出・搬送活動

- 救出・搬送活動の目的
- 救出・搬送活動の目的
- 救出・搬送活動の目的

(7) 応急復旧活動

- 応急復旧活動の目的
- 応急復旧活動の目的
- 応急復旧活動の目的

(8) その他

- その他
- その他
- その他

添付資料

防災マップ、緊急連絡網、自主防災会名一覧、役割分担表、防災器材一覧表、情報伝達文

〇〇学区自主防災会
防災行動マニュアル（地震）

役割分担表（地震）

項目	担当	備考
総務	〇〇〇	
広報	〇〇〇	
防災	〇〇〇	
救急	〇〇〇	
消防	〇〇〇	
その他	〇〇〇	

〇〇学区 自主防災会本部（本部役員含む）
防災行動シート（地震）

防災器材格納庫器材点検表

品名	数量	点検状況	備考
消火器	10	〇	
救助用器具	5	〇	
応急処置キット	3	〇	
その他	2	〇	

防災器材格納庫器材一覧表

品名	数量	点検状況	備考
消火器	10	〇	
救助用器具	5	〇	
応急処置キット	3	〇	
その他	2	〇	

自主防災会の状況に応じてマニュアルに必要な書類を追加してください。

〇〇〇学区自主防災会 防災行動マニュアル（地震）

① 自主防災会本部を設置するとき

- 京都市内に震度5強以上の地震が発生したとき
- 学区内に地震による被害が発生し、避難者が出たとき

② 発災直後の対応（初動措置）

- 自分の身を守るなど、各自の初動措置をとる
- 家族の安否確認、隣近所に声を掛けて地域の集合場所へ移動する
（役員は自分自身が無事であること、避難所へ向かうことを伝える）
- 役員は避難所（自主防災会本部を立ち上げる場所）へ移動する
- 必要物品を持っていく（防災行動シートで確認する）

③ 自主防災会本部の設置

- 避難所の開設準備をする → 避難所運営マニュアル参照
- 避難所開設のための各種団体長へ連絡する
- 自主防災会本部を立ち上げる → 必要物品準備（防災行動シートで確認する）
- 役割分担を確認する

④ 情報収集（□）、情報処理（○）

- 各自主防災部から安否確認表を受け取り、避難状況・被害状況等の情報を収集する
- 3時間たっても報告がない、避難所に来ない自主防災部の被害状況を確認する
（防災活動に協力できる住民の中から確認に行ってもらおう）
- 入手した情報を整理して、学区全体の被災状況、活動状況等をホワイトボードと地図に記載する
 - 火災発生状況 ○ 負傷者数 ○ 避難者数
 - 建物倒壊状況 ○ 通行できない箇所
 - 地震の情報 ○ 京都市、気象庁等の発表情報
- 関係機関等との情報を共有する。（電話番号は緊急連絡網で確認）
 - 【 】区役所 ○ 【 】消防署 ○ 【 】警察署
 - 【 】土木事務所 ○ 【 】学区自主防災会（隣接学区）
- 被害があれば、消防団に連絡し連携して活動する

⑤ 消火活動

- 集まった消火器やバケツなどの器材を1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）へ、防災活動に協力できる住民で応援に行く
- 現在の活動や、被害状況について情報処理担当に報告し、情報を共有する
- あらゆる手段で消防団、消防署員に連絡し、消火活動を実施してもらう
- 火に囲まれて、逃げ道をふさがれないように必ず見張りを付ける

⑥ 救出・救護活動

- 防災器材格納庫から防災器材を取り出し、集まった器材と一緒に1箇所に集める
- 被害が大きく、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）へ、防災活動に協力できる住民で応援に行く
- 現在の活動や、被害状況について情報処理担当に報告し、情報を共有する
- あらゆる手段で消防団、消防署員に連絡し、救助活動を実施してもらう

⑦ 応急救護所活動

- 応急救護所を〇〇〇小学校保健室に設置する
- 必要器材を準備し、集まった器材と一緒に保健室に集める
- 応急救護所で応急処置を実施する
- 医療機関へ搬送する必要がある負傷者を、使える手段を用いて搬送する
 近い順 ① 〇〇〇医院 ② 〇〇〇診療所 ③ 〇〇〇総合病院
 方法 ① 車 ② リヤカー ③ 応急担架 ④ 車いす ⑤ おんぶ

⑧ その他

- 〇〇〇中学校には自主防災会副本部を設置し、副会長をリーダーとする
- 中学校の生徒が学校に残っている場合は、学校内での防災活動に協力してもらうようお願いする
- 配慮を要する住民が避難されれば、避難所運営協議会に対応をお願いする
- 火災が拡大し危険なときは、安全なルートを通して広域避難場所〔〇〇河川敷〕へ避難する
- 感染症の感染防止対策のため、消毒用アルコール、マスク等を準備する

添付資料

防災マップ、緊急連絡網、自主防災部名一覧、役割分担表、防災器材一覧表、情報伝達文

(6) 防災行動シートの作成

防災行動マニュアル（地震）ができれば、役員の皆さんが災害発生時に慌てずに行動ができるよう、また、マニュアルを読まなくても活動ができるよう、フローチャート図やチェックシートタイプの防災行動シート（様式6-1-1～様式6-1-3）を作成しましょう。作成例を参考に、地域の実情に応じた、使いやすいものが作成できれば、防災行動マニュアル（地震）の完成です。

【作成例1】

実施すべき事項、役割分担、必要物品、避難所の開設基準、情報伝達文など、全てを1枚で掲載したパターン。文字が小さくなるのが難点です。

様式6-1-1

〇〇〇学区 自主防災会長（本部役員含む） 防災行動シート【地震】

地震発生
(初動動作)

避難所を開設するときは

- 震度5強以上
- 学区内に被害が発生

火災が拡大し危険なときは
〇〇河川敷へ避難!!

<input type="checkbox"/> 身の安全を確保する <input type="checkbox"/> 素早く火の始末をする <input type="checkbox"/> 出口の確保 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認をする <input type="checkbox"/> 隣近所の被害確認	<input type="checkbox"/> 余震に注意し、正しい情報を収集する <input type="checkbox"/> プレーカーを切る <input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉める <input type="checkbox"/> 避難の準備をし、必要物品を持つ（※1） <input type="checkbox"/> 避難に支援の必要な方への声掛け
---	---

地域の集合場所 無事であることを伝え避難所へ移動

〇〇〇小学校

- 避難所開設準備
- 避難所開設のための各種団体長への連絡
- 自主防災会本部の立ち上げ
- 役割分担の確認

情報収集担当（ ）・情報処理担当（ ）

- 各自主防災部長等から避難状況・被害状況等の情報収集
- 報告がない、避難所に来ない自主防災部の被害状況の確認
- 入手した情報の整理、学区全体の被災状況、活動状況等の把握
- 区役所等関係機関との情報共有
- 消防団との連携活動
- その他

消火活動担当（ ）

救出・救護活動担当（ ）

- 防災器材格納庫からの防災器材取り出し・集まった器材を集める
- 被害が発生し、防災活動に人手が足りない自主防災部（町内会）への応援
- その他

応急救護所担当（ ）

- 応急救護所の設置
- 医療機関へ搬送する必要がある方の搬送
- その他

活動が収束すれば
避難所運営へ

担当	氏名・役職	氏名・役職
	会長	副会長1
情報収集・処理担当	事前に記載	事前に記載
消火担当	事前に記載	事前に記載
救出・救護担当	事前に記載	事前に記載
応急救護所担当	事前に記載	事前に記載

その他の避難所開設担当

〇〇〇中学校…副会長2・自治連合会
 (学校 ****-****)
 (会長携帯 090-****-****)
 (副会長携帯 090-****-****)

必要物品（※1）

<input type="checkbox"/> 名簿	<input type="checkbox"/> ラジオ	<input type="checkbox"/> 非常持出袋	<input type="checkbox"/> 消火用具
<input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> 自主防災会標旗	<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> 消火器
<input type="checkbox"/> 緊急連絡網	<input type="checkbox"/> メガホン	<input type="checkbox"/> 食料	<input type="checkbox"/> 水ハケツ
<input type="checkbox"/> 携帯電話	<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ライター	<input type="checkbox"/> 救出用具
<input type="checkbox"/> 避難所の鍵	<input type="checkbox"/> レインコート	<input type="checkbox"/> マッチ	<input type="checkbox"/> バール
<input type="checkbox"/> 軍手・皮手	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 電池	<input type="checkbox"/> ジャッキ
<input type="checkbox"/> ホイッスル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 携帯トイレ	<input type="checkbox"/> シャベル
			<input type="checkbox"/> その他

25
地震編

【作成例2】

避難所の開設基準、実施すべき事項を時系列に1枚で掲載したパターン。文字は読みやすくなりますが、記載事項を絞る必要があります。

様式6-1-2

〇〇〇学区 自主防災会長（本部役員含む）

防災行動シート【地震】

災害が起こったときは以下の要領で行動を！



震度5弱以上の地震が発生した場合→避難所を開設
（*〇〇〇小学校ふれあいホールに自主防災会本部設置）

地震発災時（普段から確認しておくこと）	
<input type="checkbox"/> 自分の身の安全の確保	まず、生き残る！怪我をしないこと！
<input type="checkbox"/> 火の始末	
<input type="checkbox"/> 出口の確保	
地震発災直後	
<input type="checkbox"/> 家族の安否確認	<input type="checkbox"/> 非常持出袋を持つ
<input type="checkbox"/> 避難所の開設の判断（震度5弱以上もしくは学区内に被害が発生し、被災住民への支援が必要な場合）	<input type="checkbox"/> 避難所開設に必要な物品を持つ ※欄外参照
	<input type="checkbox"/> 隣近所の被害確認
<input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉める	<input type="checkbox"/> 地域の集合場所へ（無事を伝え早期に避難所へ）
<input type="checkbox"/> 電気のブレーカーを切る	<input type="checkbox"/>
避難所開設前に実施すること	
<input type="checkbox"/> 自主防災会本部の立ち上げ	<input type="checkbox"/> 地震に関する情報収集
<input type="checkbox"/> 自主防災会役員の安否確認	<input type="checkbox"/> 学区内の災害に対する応援要請への準備 （避難住民で防災活動に協力できる人数を把握）
<input type="checkbox"/> 避難所の確認（使用の可否等）	
<input type="checkbox"/> 役割分担の確認	<input type="checkbox"/> 防災器材格納庫から器材準備
<input type="checkbox"/> 学区内の被害状況の把握	<input type="checkbox"/> 避難所の開設（避難所運営マニュアルへ）

〇〇〇学区 避難所

①〇〇〇小学校

②〇〇〇中学校

（避難者数が、〇〇〇小学校の許容を超えた場合、自主防災会の判断で開設）

※ 避難所開設に必要な物品

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 避難所の鍵 | <input type="checkbox"/> 筆記用具 |
| <input type="checkbox"/> 名簿 | <input type="checkbox"/> ラジオ |
| <input type="checkbox"/> 緊急連絡網 | <input type="checkbox"/> 自主防災会標旗 |
| <input type="checkbox"/> 携帯電話 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |

【作成例3】

実施すべき事項を時系列に複数枚で掲載したパターン。文字は読みやすくなりますが、枚数が多くなります。

様式6-1-3

〇〇〇学区 自主防災会会長（本部役員含む）

地震 行動シート



身の安全の確保を1番に
(まず、生き残る！怪我しないこと！)

地震発災直後

- 家族の安否確認
- 避難所開設の判断

震度5弱以上
住民への支援が必要 → **開設へ**



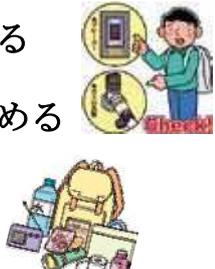
必要物品の確認

- ① 避難所の鍵
- ② 連絡網・名簿
- ③ ラジオ
- ④ 筆記用具
- ⑤ 携帯電話
- ⑥ 懐中電灯
- ⑦ 非常持出袋



家を出る前に

- ブレーカーを切る
- ガスの元栓を閉める
- 必要物品を持つ



地域の集合場所へ

- 隣近所の被害を確認
- 無事を伝え先に避難所へ



〇〇〇小学校
避難所

避難所開設前に①

- 自主防災会本部の立ち上げ
- 役員の安否確認
- 学区内の被害状況の把握
- 避難所の確認（使用の可否）

避難所開設前に②

- 役割分担の確認
- 消火活動等の応援要請の準備
- 防災器材の準備
- 避難所開設準備